



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimurai950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

◎石叫 ■ 「平和は兄たちがいたから」
 この文は『羅府新報』七月二十九日付にあった「特攻」からの引用である。
 「昭和三十年夏、中西家に一通の手紙が届いた、差出人は関東地方に住む二十七歳の女性だった。手紙には『伸一さんのお墓参りをさせてほしい』とあった。両親と一緒に墓参りをしたが、女性は墓参りの理由を一切、明かさなかった。女性が『実は一緒にいたかった』と明かしたのは何年もたってからだった。
 昭和二十年、中西伸一少尉は二十二歳。女性と書店で出会い、話をするようになった。当初の憧れが時間と共に憧れ以上の気持ちに気づいたという。忘れられない人だから墓参りを続けていると言った。平成八年五月、知覧での慰霊祭の際、少尉の弟の小松雅也さんらは、女性を誘い、少尉の遺品を特攻平和会館に納めることにした。女性は『軍服を一晩貸してください』と言った。翌朝、女性は目を真っ赤に腫らして小松さんらの前に現れた。小松さんは『一晩中、兄貴だと思つて、軍服を抱いて寝たんでしょう。切ないです』と振り切った。
 女性は特攻に関する証言集に自分の思いを投稿していた。『どこに行くの?』私の問いに彼は『そこだよ』と新聞をさした。そこには沖繩の決戦の文字が躍っていた。『捕虜になってもいい、生きて!』。思ってもいなかった言葉が飛び出て、私は一瞬呆然とした。それが自分の本当の心である事を自覚していた。駅までの短い道を、彼は負け戦の無念さ、国家の大事に殉ずる国民の使命感を諄々と説くのであった。そして『俺だって、生きていたいよ』と、つぶやくように言葉を終えた。この最後の言葉は今も私の胸の中に、熱い生への執着を断ち切つて死地向つた一人の青年の凝縮された哀しみとして重く残っている。
 戦時中は特攻出撃を当然のように応援していた小松さんも、戦後七十年たった今はこう感じる。『兄たちのおかげで戦後七十年間、平和の中で暮らしてきた。これほどありがたいものはない。わしらは恐ろしい戦争体験をしたから、戦争と平和を比較できる。わしらが体験したところへ二度と戻らせたくはない。そのためにも、今の平和は兄たちがいたからだと伝えていかなければいけない』
 与謝野晶子は日露戦争に出征する弟に、「君、死にたもうなかれ」と詠った。誰だって生きて欲しいが、現実がそれを許さない。だから真の平和が求められる訳だ。そこで主は、「平和をつくり出す人たちはさいわいである」(マタイ五・9)と宣言する。平和は造られるものであり、信じる者の信仰によって主がもたらす世界である。働き手は私やあなたであり、それは教会から始まってゆく。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

